

いつものアノ病氣, アノ状態

“在宅で診るときならでは”の「コツ」!

現在の日本では超高齢社会や新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行などのさまざまな影響を受けて、いっそう「在宅医療」のニーズは広まり、その重要性は増してきている状況にあります。まだまだ地域差はありますが、なかには在宅専門でのクリニック開業のケースなども見受けられるようになり、その在宅医療の展開の仕方についても多様なサービスの形が設けられるなど、確実に現代の日本の医療の重要な一角を担っていると言っても過言ではない状況になってきています。

対して振り返れば、過去われわれ臨床現場の医療従事者が実際に医学を学んできたフィールドや文脈については、実はその多くは「外来」や「病棟」を舞台としたものとなっていたのではないのでしょうか。病棟ならばこうする、外来ならばこうする、といった知見やノウハウが、そのまま「在宅」で適応できなかったケースにもおのおの出合ったことはあるのではないのでしょうか。

実際に、外来や病棟での医療の形と在宅での医療の形とでは、それぞれの特徴から、展開の仕方や注意すべきポイントなどが随所で異なってきます。そのようななか、われわれ医療従事者はこれまで学んできたさまざまな疾患や状況への対応について、適切に「在宅医療」のフィールドや実情に調整/チューニングすることが求められてきます。

今回の特集では、各疾患や状況において、ガイドラインなどにはまだまだ掲載されにくいようなテーマも含めた、実際に遭遇すると困ってしまうポイントや、知っていると在宅医療の展開において得をするちょっとした「コツ」などをまとめてみました。この違いを知っておくことで、在宅医療の現場はもちろんですが、在宅医療と適切に連携をとることが求められる、病棟や外来での医療従事者側からでも役に立つように企画構成を行っております。執筆したメンバーもさまざまな立場から日本の在宅医療に従事されるメンバーに集まっていただきました。読者の皆様におかれましては、今

回の企画を通じて、1つでも「お？このようなことがあるのか」だったり、「在宅での世界が少し見えやすくなった！」「これから在宅側と連携するときにこの点は気にしてみよう！」「在宅医療って面白そう！」などの新たな発見があるなら、企画担当としてとてもうれしく思います。

今後、これから在宅医療を始めることになる方、もうすでに在宅医療を始めていてさらなるレベルアップを図りたい方、在宅医療には携わっていないけれども外来や病棟を担う立場から在宅医療とのよりレベルの高い連携を目指される方、少し在宅医療に興味をもってみたいけれども何から手を付けたらよいかわからない方、などなど、多くみなさまに実際に手にとっていただき、そしてぜひ本特集をお役立てくだされば幸いです！



中村 琢弥

(滋賀家庭医療学センター弓削メディカルクリニック)